

(様式6-3)

研修等 報告書

平成 29 年 7 月 18 日

三田市議会議長 平野菅子 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	代表者	印
	議員名	小杉崇浩
参加者氏名	小杉崇浩	印
講演会等研修名	元副市長が教える自治体財政マスター講座	
研修事項	1. 議員の基本「財政比較分析の仕方」 2. 決算審査のアプローチ1 3. 決算審査のアプローチ2	
日 時	平成 29 年 7 月 5 日（水曜日）～平成 29 年 7 月 6 日（木曜日）	
場 所	リファレンス駅東ビル	
所 見	<p>地方公共団体の財務書類は行政特有の専門用語が多く、理解しにくいものとなっています。決算審査に向けて、しっかりと財務状況を把握するための力を身につけるために参加しました。</p> <p>今回参加した講座は、元廿日市市の副市長であり、広島県でも財務を担当しておられた川本達志氏が講師を務め、現場の経験を踏まえたわかりやすい内容でした。</p> <p>初日の講義は、「財政比較分析の仕方」というタイトルで、類似団体と比較することにより、当団体の財務傾向を分析する方法を説明していただきました。</p> <p>2日目の講義は、決算審査のアプローチということで、参加者の自治体の決算カードを基にした決算審査における注目点と質問のポイントを教えていただきました。</p> <p>2日間を通して、議員として最低限知っておかなければならない財政の見方を教えていただいたので、今後の議員活動にしっかりと役立てていきたいと思えます。（詳細は別紙添付）</p>	
添付資料	・研修報告書別添資料 ・パンフレット	

6 添付書類（講演会内容のパンフレット等）

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、参加者氏名は不要）

## 研修等報告書 別添資料

参加者：小杉崇浩

研修名：「元副市長が教える自治体財政マスター講座」

講師：川本達志氏

日時：平成 29 年 7 月 5 日～6 日

①議員の基本「財政比較分析の仕方」、②決算審査のアプローチ 1（基礎編）、③決算審査のアプローチ 2（応用編）の 3 講座を受講。

### ①議員の基本「財政比較分析の仕方」

最初の講義は、自治体ごとの決算財政状況資料集（平成 27 年度）を用いて、財政状況を把握するための分析方法を教えてくださいました。

まず、財政状況を把握するためには、自分の自治体の状況を見るだけでは不十分で、人口や産業構造が似ている類似団体と比較することが重要であるとのことでした。類似団体と比較することで、他の団体より劣っている点、また優れている点も把握でき、今後の改善点が明確になるためです。三田市は、市町村類型では、Ⅲ－3 にあたり、全国に 38 団体あるうちのひとつでした。

次に、財政比較分析表の見方を教えてくださいました。比較する項目としては、財政力、財政構造の弾力性、人件費・物件費等の状況、将来負担の状況、公債費負担の状況、定員管理の状況、給与水準があります。

財政力は、財政力指数で表され、自由に使える自主財源の割合を示しており、大きければ留保財源も増え、財政支出の裁量幅が大きくなるものです。三田市は、0.83 で、類似団体のうちでは、38 団体の 15 位でした。

財政構造の弾力性は、経常収支比率で表され、三田市は 94.4% であり、類似団体のうちでは、38 団体の 31 位でした。人件費・物件費と繰出金が高いことが影響していると思われます。

人件費・物件費等の状況は、人口 1 人あたり人件費・物件費等決算額で表され、三田市は、118,831 円で、類似団体 38 団体の 34 位でした。平成 24 年度より類似団体平均よりも大きくなっており、年々広がっています。

将来負担の状況は、将来負担比率で表され、三田市は 2.1% であり、類似団体 38 団体の 13 位でした。

公債費負担の状況は、公債費負担比率で表され、三田市は 8.9% であり、類似団体 38 団体の 29 位でした。年々減少してきてはいるが、まだ類似団体平均値よりも高い水準となっています。

定員管理の状況は、人口千人当たり職員数で表され、三田市は 5.79 人で、類似団体 38 団体の 13 位でした。人件費は高いが、職員数は類似団体平均を下回っている状況にあります。

給与水準は、ラスパイレス指数で表され、三田市は100.4で、類似団体38団体中20位でした。類似団体平均値を0.7ポイント上回っている状況にあります。

以上が財政状況資料集に基づく財政比較分析の概要であります。これらの中には、公共施設等の老朽化による影響が含まれておらず、今後、固定資産台帳に基づく資産老朽化比率を新たに財政分析資料として追加するなどして、ストック情報も分析対象としていく必要があるとのことでした。

## ②決算審査のアプローチ1（基礎編）

2日目の午前は、「決算審査のアプローチ（基礎編）」として、決算書を理解するにあたって必要な基礎知識の説明と読み解くポイントの説明でした。

まず、地方自治法における決算に関する規定の説明があり、決算書類は会計責任者が作成し、団体の長に提出するとのことでした。また、地方自治法第二百三十三条の3項に、「普通地方公共団体の長は、前項の規定により監査委員の審査に付した決算を監査委員の意見を付けて次の通常予算を議する会議までに議会の認定に付さなければならない」と規定されているとのことでした。

次に、決算書の用語の説明があり、「調定額」、「不能欠損額」のような行政用語を理解しておく必要があるとのことでした。

決算審査の視点としては、①持続可能な財政状況にあるか、②事業の成果は上がっているか、また改善すべきことはないか、③違法不当な収入・支出はないか、の3点が重要であるとのことでした。③は、監査委員もチェックしているので、議員としては、特に①と②をしっかりと見るべきだとのことでした。

まず、①の持続可能な財政状況かどうかに関しては、財政の持続可能性を表したものに健全化判断比率があり、早期健全化基準や財政再建基準を下回らないようにしなければならないとされているが、赤字になることが異常であり、健全化判断比率が基準内だからと言って、それで良いというものではないとのことでした。議会としては、赤字地方債（臨時財政対策債）の発行を抑制する方向で、自治体経営の監視と提言を行うべきであるとのことでした。

また、客観的な財政状況を把握するためには、決算カードや歳出比較分析表の活用が大切であるが、それだけでなく、市民、議会と市長が基本的な情報と方針を共有するためのものとして、中期財政計画を見しておく必要があるとのことでした。

中期財政計画に関しては、現状の分析、ローリング資料による確認、財政運営方針・数値目標の達成度の確認、予算編成方針への反映のような視点が必要であるとのことでした。

次に、施策・事業の成果についてですが、決算資料だけではわからないため、事業評価（主要施策の成果）を見なければならないとのことでした。そして、市民でもわかりやすい資料とするために、「事業シート」を活用すべきとのことでした。また、いわゆるPDCAのサイクルも、事業シートを活用し、プロセスの見える化を行うことが大切であるとのことでした。

最後に、決算審査のスケジュールについて、来年度の予算に反映させるためには、9月中に審査・認定を終える必要があるとのことでした。

三田市に関しては、事業評価も決算認定もしっかりなされているので、議員としては内容をしっかりと見ていかないといけないと思います。

### ③決算審査のアプローチ2（応用編）

2日目の午後は、決算審査のアプローチ（応用編）ということで、下記のような質問のポイントを説明していただきました。三田市においても当てはまる項目が多く、今後の財政をチェックする上で参考にしていきたいと思います。

#### ○交付税の確保見直しについて

内閣府が経済財政諮問会議に提出した資料によると、2020年度の国と地方を合わせた基礎的財政収支の赤字額は5.5兆円で、国内総生産（GDP）に占める割合は1.0%となる見通しで、目標となる黒字化には届かず、一段の歳出削減が必要となる。今後、削減対象として交付税への切り込みが行われる可能性は高い。

#### ○臨時財政対策債に対する認識について

臨時財政対策債は赤字地方債であるが、元利償還金については将来交付税で措置されるものであり、実質的な交付税と変わらないとされている。しかし、将来の交付税財源が減少すれば、国が肩代わりできなくなる可能性もあるのではないかと。臨時財政対策債を抑制する方向で財政運営をする必要があるのではないかと。

#### ○利用者負担の適正化について

公共施設には、1. 市民生活に不可欠で行政が提供する必要があるもの、2. 市民生活に不可欠で、行政以外の者でも提供できるもの、3. 個人によって必要性が異なるもので、行政が提供する必要があるもの、4. 個人によって必要性が異なるもので、行政以外の者でも提供できるもの、の4つに分類できる。公共施設の運営コストを公表し、それぞれにふさわしい負担原則が設定されているか。

#### ○税の徴収率のアップについて

県内の市町村の中で税の徴収率順位を確認し、徴収率アップの具体的方策を問う。

#### ○義務的経費の歳出増予測について

社会保障関連経費（高齢者人口の増加、障害のある市民の増加、子育て政策の質の向上と量の拡大、社会的格差の拡大、独居高齢者の増加等）が見込まれる。経常収支比率で義務的経費削減をコントロールする必要がある。

#### ○定員管理の在り方について

定員管理目標の設定の必要性。非正規職員、委託、派遣などに代替させることが多いので、そこもチェックが必要。

#### ○役所事務の生産性の向上について

労働力不足の未来推計（インテリジェントHITO総合研究所）によると、2025年の

人手不足予想で、政府サービス等は245万人の余剰と想定されている。「地方公共団体の職場における能率向上に関する研究報告書」においても、ワークスタイルを変革する10のワークプレイス改革として、様々な不効率な業務を見直す必要性を訴えている。

#### ○職員給与の「民間準拠」の意味について

職員給与の原則として、均衡の原則があり、「生計費並びに国及び他の地方公共団体の職員並びに民間事業の従業者の給与その他の事情を考慮して定められなければならない。」

(地方公務員法第24条第3項)とあり、実際は人事院勧告に基づいている。しかし、この人事院勧告は企業規模50人以上かつ事業所規模50人以上を対象として調査されたものであり、地域の実情を反映していると言えるのか。

#### ○成果評価の職員給与への反映について

民間企業では当たり前に行われている成果を給与へ反映させる仕組みが、地方自治体職員には行われていないのはなぜか。数値で評価しにくい業務に関しても、民間企業では定量又は定性の目標設定をし、評価に反映している。

#### ○公債費残高の評価と今後の見通しについて

財政計画と今後の公債費の推移について把握しているか。普通建設事業費が増えれば、借金も増えるので公債日も増える。どのような基準で公債費をコントロールするのか。

#### ○公共施設の再配置計画について

公共施設跡地用地の活用をどう考えるか。地域のまちづくりの方向性を考慮し、民間の提案による民間の力で活用できないか。また、ストックはストックへという考え方で、民間売却する場合は、安易に経常経費に充てず、基金への積み立てあるいは地方債の繰り上げ償還に充てるべきでは。

#### ○公共施設の指定管理の適正執行について

利用者の満足を得られているのか、公共施設の効用を最大限発揮できているのか、管理費が適切に公共施設の維持に使われているのか、という視点で見直しが必要。

#### ○事業の成果の測定方法について

事業の成果の測定は、アウトプット(施設・物品等)に着目するのではなく、KPI(最終的な目標に対して、その達成につながる状況をみる指標)を策定し、アウトカム(成果)につながる施策が有効に機能しているのかどうかを把握する必要がある。

# 地方議員研究会

決算審査直前 元副市長が教える

2日で  
わかる

## 自治体財政 マスター講座

in  
博多

7月5日(水)

10:00~12:30

### 地方版総合戦略と 自治体財政

- ・消滅可能性都市のウソ?ホント?
- ・まち、ひと、しごと創生総合戦略との関連
- ・地方人口ビジョンと自治体
- ・夕張問題から何を学ぶか

14:00~16:30

### 議員の基本 「財政比較分析の仕方」

参加自治体それぞれの  
財政状況資料集を配布、解説

- ・あなたの街の財政状況資料集をまず確認
- ・あなたの街の財政は、同規模自治体と比べるどの水準か?
- ・自治体財政は比較することで理解が進む
- ・財政課が教えてくれない財政の将来負担の見方

7月6日(木)

10:00~12:30

### 決算審査の アプローチ1

- ・自治体決算の仕組み
- ・決算審査の効果的な方法
- ・予算と決算の連動について
- ・議員としての指摘ポイント

14:00~16:30

### 決算審査の アプローチ2

- ・財政比較分析表、歳出比較分析表の活用方法
- ・決算カードを用いた審議方法
- ・客観的に財政のトレンドを見る手法
- ・これからの自治体議員が  
審査にあたり留意する点

かわもと たつし  
**川本 達志**  
元・廿日市市副市長

1956年広島県生まれ。九州大学法学部卒。広島県庁において、公務員労務、基礎自治体の行財政指導、契約法務、県財政の健全化計画の策定などに従事。2005年4月に広島県廿日市市に移り、分権政策部長を経て2008年1月副市長就任。市の行政経営システム改革、中期財政運営方針の策定、廿日市市協働によるまちづくり基本条例策定などにあたる。副市長在職中に広島県立大学大学院修了。2011年12月退職。2012年3月から株式会社野村総合研究所 上級コンサルタント。2014年4月に独立。



※当社類似名称を名乗る企業、団体から案内チラシが届くと相談が寄せられておりますが、当社とは全く関係ございません。テーマ等も同じ場合がございますので、お間違いのないようにくれぐれもご注意ください。